

●胃部X線検査

所見名	説明
とうりょうぞう 透亮像	局所的にバリウムがはじかれた様を表す所見で、胃粘膜が隆起した状態が疑われます。（鑑別疾患：胃ポリープ、粘膜下腫瘍、胃癌など）
ニッシェ	局所的にバリウムが濃くたまった様を表す所見で、胃粘膜が深く陥凹（欠損）した状態が疑われます。（鑑別疾患：胃潰瘍、胃癌、悪性リンパ腫など）
Ba斑	局所的にバリウムが淡くたまった様を表す所見で、胃粘膜が浅く陥凹（欠損）した状態が疑われます。陰影斑ともいいます。（鑑別疾患：胃びらん、胃癌、悪性リンパ腫など）
集中	2本以上の粘膜ひだ像が局所的に集中した様を表す所見で、胃潰瘍や胃潰瘍瘢痕を伴う病変の存在が疑われます。（鑑別疾患：胃潰瘍、胃潰瘍瘢痕、胃癌など）
粘膜異常	ある領域の粘膜模様像が周囲の正常模様と異なる様を表す所見で、胃炎や何かしらの病変の存在が疑われます。
壁硬化	胃壁の伸展が悪い様を表す所見で、胃壁が硬くなっている状態が疑われます。（鑑別疾患：胃潰瘍、胃潰瘍瘢痕、胃癌など）
へんぷせい 辺不整	胃の辺縁像が正常と異なる様を表す所見で、何かしらの病変の存在が疑われます。
変形	胃の全体像または局所像の形が正常とは異なる様を表す所見で、何かしらの病変の存在が疑われます。
あっぱい 圧排	胃が周囲の臓器や腹腔内の腫瘍から押されて変形している様を表す所見で、周囲臓器の精密検査を必要とする場合があります。
食道病変	食道がん、食道潰瘍、食道ポリープ、食道静脈瘤など、食道に発生する病変の存在が疑われます。
胆石	胆のうや胆管内に石の存在が疑われます。
手術胃	手術によって、胃を全体的または部分的に切除していることを示します。
胃ポリープ	胃底腺ポリープや過形成性ポリープなど、胃粘膜の隆起を伴う良性病変の存在が疑われます。
ねんまくかしゅう 粘膜下腫瘍	リンパ腫、GIST（消化管間質腫瘍）、肉腫など、胃の粘膜上皮ではなく、血管や筋肉、神経等に発生する腫瘍の存在が疑われます。

いかいようはんこん 胃潰瘍癒痕	胃潰瘍が治り、胃粘膜が修復された状態を示します。
じゅうにしちょういかいようはんこん 十二指腸潰瘍癒痕	十二指腸潰瘍が治り、十二指腸粘膜が修復された状態を示します。
慢性胃炎（ <small>いしゆくせいえん</small> 萎縮性胃炎を含む）	胃炎が慢性的に持続した状態を慢性胃炎といい、ピロリ菌感染の可能性がります。その他、胃炎には、胃の粘膜の容積が減少した萎縮性胃炎、粘膜が凸凹になる過形成性胃炎、粘膜が厚くなる肥厚性胃炎などがあります。
胃がん	胃にできる悪性腫瘍の総称です。そのほとんどが胃の粘膜に発生しますが、粘膜以外（血管や筋肉、神経など）に発生するものもあります。早期がんで発見することで予後（生存率や生活の質）が良好となります。
胃癌	胃粘膜（上皮）に発生した悪性腫瘍で、胃がん（胃の悪性腫瘍の総て）のほとんどを占めます。
胃潰瘍	胃粘膜の深い欠損を伴う良性病変です。基本的には治療が必要となります。
胃悪性リンパ腫	胃粘膜ではなく、胃粘膜下の血液に発生したがんです。胃粘膜に発生する胃癌に比べて、発生頻度は稀です。胃MALTリンパ腫も胃悪性リンパ腫の一種です。
GIST	消化管間質腫瘍のことで、胃粘膜ではなく、胃粘膜下に発生する悪性腫瘍の一種（肉腫）です。胃粘膜に発生する胃癌に比べて、発生頻度は稀です。
胃底腺ポリープ	胃底腺領域（主に胃の上中部）にできる隆起性の良性病変で、基本的に治療は要しません。大きさは1 cm以下で多発しやすい特徴があります。
胃過形成性ポリープ	胃のどの領域にもみられ、大きさは大小様々で、単発の場合もあれば複数みられることもあります。ごく稀に癌化することがありますので、経過観察が必要です。
胃びらん	胃粘膜の浅い欠損を伴う良性病変で、基本的に治療は要しません。大きさは1 cm未満で多発しやすい特徴があります。
胃憩室	胃壁の一部が外側（腹腔）方向に袋状に突出したもので、基本的に治療は要しません。
十二指腸潰瘍	十二指腸粘膜が傷つけられ、粘膜や組織の一部がなくなる病気です。主に十二指腸の入り口にある十二指腸球部に出来やすい特徴があります。
食道がん	食道にできる悪性腫瘍の総称で、胃がんに比べて、発生頻度は低いです。胃がんと同じく早期発見、早期治療で救命できます。

食道裂孔ヘルニア	食道が横隔膜を通り抜ける間隔である食道裂孔から、本来腹腔内にあるべき胃が胸腔内に入り込む状態をいいます。逆流性食道炎などの症状があれば治療の対象になります。
食道静脈瘤	食道の静脈がこぶ状に腫れた状態で、内視鏡などの精密検査が必要です。。主に肝硬変や肝がんに伴う門脈の血流障害により生じます。
アカラシア	食道から胃にかけての筋肉機能障害により、摂取した食物をうまく胃に運べない病態で、内視鏡などの精密検査が必要です。
逆流性食道炎	胃酸や胃で消化される途中の食物が、食道に逆流して、食道が炎症を起こし、胸やけや胸の痛みなどさまざまな症状が生じる病気です。
バレット食道	逆流性食道炎などで炎症を起こして傷害された食道の粘膜が、胃から連続して胃粘膜で置き換えられた状態をバレット食道といい、食道がんに対してリスクが高いといわれています。